

# いざも浮世絵 しんぶん

第4号  
藤沢市  
藤澤浮世絵館  
1月15日発行



えっさほいさー!  
坂を人力車で登るのは  
とつてもたいへんだ!

じんりきしゃ  
人力車がお客さんに乗せて目指すのは、おいしいお餅もちが人気のお茶屋さん。店をめざしてえっさほいさー！  
元気な声が聞こえてきそ  
うな浮世絵です。

この作品は、明治時代の初めに描かれた保土ヶ谷宿ほどがやしゆくの風景です。浮世絵で保土ヶ谷というと、この場所がよく描かれます。

絵をよく見ると、明治時代になって新しく登場した電信線でんしんせんや人力車が描かれています。新しい時代の幕開けの様子がよく表されている一枚です。

ところで、絵の左上に文字が書かれているけれど、気付いた人はいるかな。

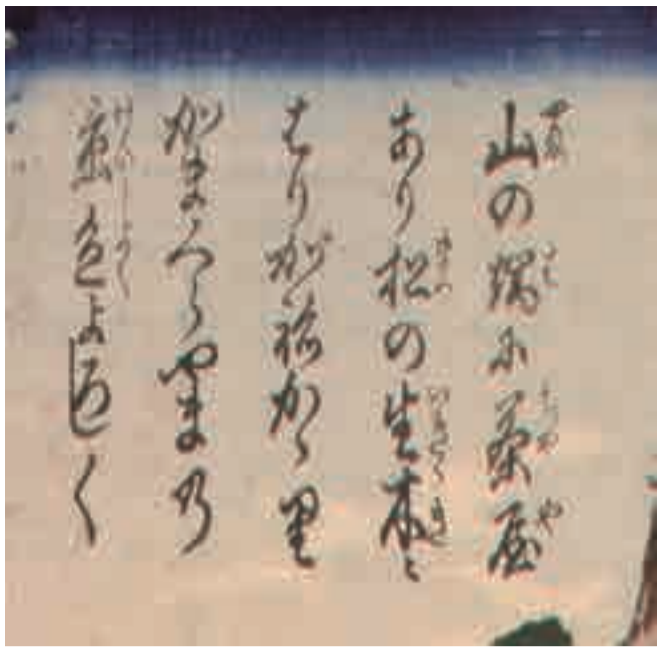
今の私たちが使うひらがなとはちがうように見えるこれらの文字を、「変体仮名へんたいがな」といいます。日常生活で使う場面はほとんどありませんが、読み方を知っていると、浮世絵に書かれている文章や昔の手紙を読むことができます。

今号は、この作品に書かれた文章をじっさい実際に読みながら、より作品をくわしく見てみましょう。

作者は、さんだいうたがわひろしげ三代歌川広重。  
明治8年（1875）に描かれた「東海名所改正道中記 六程ヶ谷ほしがや」  
という作品です。







やま はし ちゃや  
山の端に茶屋

まつ いきぎき  
あり松の生木に

か り  
はりがねかゝ里

の  
かまくらやま乃

けいしよく  
景色よろしく

## 一文ごとに描かれている部分をピックアップ!!

木にちよくせつ  
電信線を通していた  
だなんて、びっくり!



●自然に生えた松の木に電信線がかかっている

松の生木に  
はりがねかゝ里



はりがねかゝ里

「は」は、「者」をくずしたひらがな。  
「ね」は、むずかしいけれど、「禰」をくずしてできた文字。  
「里」は「リ」で、普段からよく目にする漢字だから、読めた人もいます!



●山のはじっこに茶屋があります

山の端に茶屋あり



山の端に茶屋

まるで「ふ」のようにみえますが、「尔」という漢字をくずしたひらがなの「に」!

へんたいがな

変体仮名は、私たちがふだん使うひらがな

ちが かたち

とは違う形で書いたものが多く、ひらがな一

文字でも何通りもの書き方があり、読むのが

むずか

難しい字がたくさんあります。

昔の人が漢字をもとに、くずして書いたひ

らがながたくさん生まれたため、現在は、ひ

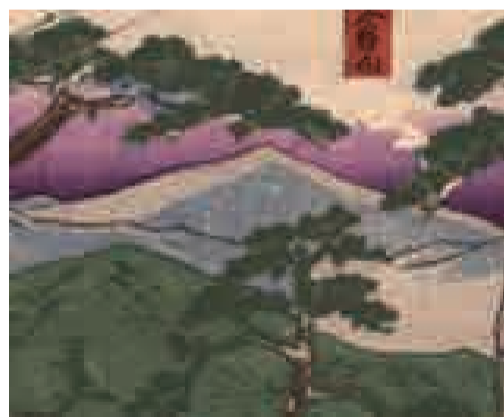
げんざい

らがなを一種類に統一し、日常生活の中で

とういつ

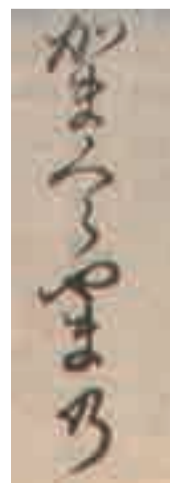
にちじょうせいかつ

使っているのです。



●鎌倉山の景色がよくみえます

かまくらやま乃  
景色よろしく



かまくらやま乃

「乃」は、現在、使われているひらがな「の」のもとになった漢字です。

ウマだけにウマくないかない! なんちゃって!



スラスラ読めるようになるまでの道はけわしい!